世說覺讀

卷一

自

524

兒談序

淮南子曰牛歧蹏而戴角馬被髦而全足者天也絡馬之口穿牛之鼻者人心循天者與道游者心隨人者與偕交者也夫井魚不可與語大拘於隘心憂由不事與語寒篤於時心曲士不可與語至道拘於俗束於教心故聖人不以人滑天不以欲亂情夫情生於好惡矣衣食居淫之欲天下一體心欲四之美者情也是以奪爭起矣喜怒哀乐又可去乎故聖人制情而無愚智賢不肖之差由道一者教心若禁情而欲一天下之人猶於水中而求火也雖聖人豈可得乎一児在治之南聽惠多學普通古今之要矣或人記其語名曰児談全八卷我友比蘇氏嘗云夫欲知於人情者則不可不由此書心宜備不朽乎難如之何故考訂之備不朽云爾

皆延享丙寅歲二月朔旦

日本　　壁雅恵撰

門司図書館 1924

神道本

評日本記者滝意之非修辞

世説児談巻之一

寛文十三年の冬十二月の頃より始めて

の書い法氏物語をかりてよみて人情をよく世にあらはしたるものなり

作りあるいとはなみ〜作りあらんにはまさりてめでたくして

見なくんいとはなみ〜作りあらんにはまさりてめでたくして

あるの書いにはまさりてめでたくして

文よりきこゆ〜蓬萊のたまのうてなの

たちまちかへりもてなす人はなし

と雪をかぶりもてなす人はなし

ことにして今の世の人をかぶりもてなす

作りたるものなりけり

代の歌詠をいみじくらきたるものなり

代の歌の巻の文詞をもて

まことにやりふるゆみよりも日本記のみを古文辞のやうにいはんも

作りたるの神も日本記をもてやりふるゆみよりも日本記

もつるもたとひあるくやうにふるも日本記

の書をもてやうやうひくもつるひくもつ

そうていと日本紀のみ

主たるものをもて聖を制して

いたのしたがつけりふるいとなるつけりふるいとなるつけりふるいとなる

て後世よりもの人の性欲をもて

聖の性欲をもて

為をもて出ずるもちんとの欲

心を貪るものいとなるもの

栄ふ用をこそもて

栄を欲して辱をこそ

ことを移りて其功をもて

為るなり

明治四十年四月八日
吉田東伍氏寄贈

其所にさらすみまして為覆を知らぬ人のゐの杖のき西其性欲をきみしく
安むし一生を全してまこと其神を肥うんことを欲せ人の性
まこと君上を君主の欲をまこと民は民の欲をまこと民の欲を制せらるること
賢君賢君患民城民のこころれは性欲を制せらること
中は孔子のこころも　暴虐の君出て城民をこころをとらひて
むを七一者を考ふのものを為り此君はこころを
言いくく功をたすこと　此中の況てうり治上ありてくに孟子絲もたくさんの草創のこころ
孔を云ふ也ふまつは通ふ亡ひ此者をこと為りをたらいのこころ
為り世は旅のいることも為のをこと為りをたらいの文
とたり是文は今の文をたらは今川の文をは
く今川の文をよくをたるり中民の旅のもひとく
教を性欲を制してたるよりしめ心制を安一生を全ふ
みなりんとの形をのみをたるふを是終ゆつる神
神は云ふをのまれ神のやをさ心聖のたるし後は文学をよりて人をさ
まふをとき其中をいうてのこまひまくをよりて
るのふをの教なり神の教をこをを中をしのを
をくるのしをいうをみをき功をなりをとのはををはをよりて
ををを意はをるのをり飲物者流をといひて執りの
ふをはををり飲物者流をといひて執りの
をりはをを武をに敬をを
善為詩者不論善為易者不占善為礼者不論
易とをりはみをきを陳を五をを徹をを
とをたをは亀の性天をる其徹をを
亀ををるとをを不論も易を用ひて亀をひとく功をなをんとなをこをを神を
勇ぐをを性勇はより性勇の血氣の勇は等一性をたを
よく為列してその人の本性を用ひるとをこをを人の
をるはをるとをををりをを人の時必をを
をををるのをををるは性をのをををを人の間をを
ををををに無をををの性をををを人をを
をををを

極楽の内とまでは信の引導にはよると愚まで最期の作法
上なきこと信ぜしむるいとめてこれ是氏を信ずるの
えんをもつるの作法のこの一法のたまものとして信ずることなり
あたの敵のそ天をを作むるの害ありて人作と無一めまくなる報氏は作り今の世まいやき人のえ
人作はようやきき人たちの最天悪まの作をおのしらく
なとるくい報氏のごとくこの一まくさの世界のわきえ
生の作る氏し佛に死の敵く氏儒ら死てのち佛はいう作はいとうて
知ることのるをいうきいきりもらもんれ修おかるのこ
屍を地よりのもらを作悪を改一基たをあるむて
のこ種あるく一文欲ハ生の種し殺おのく殺なるて
こなる世殺なりまくし九殺の種るくハ生をたの
八谷に数して名獄まひとくまを作をを作るくむ
ぶぎ礼を亡てかくあるハ作てむいみき世に
七月七日八月九日十月十日十一月十二月十三月十四月十五日十六月
一生を作を屋く睡きくりになるさ一むこれ礼義を市民乃あくるのを
生もまるを作一作を祝むの日をくるのと今の世ハ貴なるのよ一月毎の終十五日乃こと
いよく作をむいのく奪乗を止むの急猛
なりてたくしくとあるを作をくるくなくの上見ものの
秋なををまのくれこそたなるくなくこのいくく作を十五夜の月
くをて陪遊なるくなこのいくく作を十五夜の月
作る人ハ作をを附まのり拍を祝て作をいみく
ものきるの附まにけて作る作をを作をこを人のまぬ
なをまを祝ハ作的の人をハ作一三月三月のころいとを
きをのあ一周南召南の詩し詩日関々雎鳩在河之洲窈窕淑女君子好逑と云ふ雎鳩ハ
水鳥なり雌雄なりよく分乃ひ愛て離ることなく
あ作を洲とは水ほとりこと雎雄離の相ひて
平く和なるをしむとの作ふたりとも作ハ
作をを女といいまるをいくく作らこまを文王ハ妃をのめて又ひろく
作たいくくいみく作をまを一妃の流妾も妃の愛ら
女もとらくの作をまを一妃の流妾も妃の愛ら
称して作いを摎木とくい后妃をいひ葛藟と樛木
こ化しく后妃作のこのいりの作をを流妾のあ
とくまるい文王のとくをさ一ひふ作のまを

詩曰人子之不可不教此

□如

真家日々にはたらて天下を三分の二を有りをいふこと后妃姫妾たくて外文王の聖徳と閨門おさまりて
振々仁厚のことなり民と日々に猟従ひ麟之趾振々公子と云ふ
后妃の聖徳武王周公と若作りとく世の人をなつてくあるを作
麟今作りとく世の人をなつてくあるを作
の嫁女嫡妃なるきい作をくく作男も飢渇の如く欲
を作みて和なるとをの一妾を寵をるむくなりひてをを制一妾
外あるとりををけ除をとくるのをのなくなるを
あき名称とかるむ一とをとを付るて垣を
作るをき行ひ作ハ作るの女の妃貴の作くなる
なれそ付るくるて慶女よ作るハ富妾をいて
婚姻を三月の作くミたるくむ詩日桃夭々灼灼
月の間に花さきて夭くと以好のあさらふ物々
くくられいとく人の作をを一れりくるの一女と婚姻の
むるをきくと灼くたる花の作くるくく作を
生まるの鳥をうけて人をまるを鳥一とて作
垣をこゆるの作くなるをいふとのもたりたく作
いのの附なるもをさくるまるの作はを女のの作くなり一のの
張ふ文王の教ををくるひまるの作ハ君作の女のの
てなりひるるいる作の作るをを作をを作
むつまくをみれをなれをるをんをくるを女のををををひて又れ
とくをみ汁をを一外をなるをるんをくるを女のををををひて又れ
の流のをくくをんとのるるんれるをるくハ作をくるを改むくるを
作くくみのとのををくくしくくくなををを改むくるを
女に異をくくとをくくとのををくくく

しるのみ世の人弟維禾八人間牢のものにあらざるのく杯りのめてたしむ水雅赤のち弟八
いと邪なりあるくひてなるをせきりけし今のいらーきまんあるはまゆるきとをちも侍るの
とちふことくなりーつ附かるりてとえんこそえんあき

紀談巻之二　臣氏

臣氏曰欲を曰天人を性として貪なるもの欲ところとしむ欲有情情有節聖人其欲を於きあて
欲を創なるこ故の其情を行ふのおとらきまるとすると耳のみ智を欲一口の味を欲一目の色を欲
欲をるは情なり此三つのものは光輝愚智賢不肖皆情なるところ其情をなるとこ情を先ふとの
とそれ紳紂とおのー聖人のことなるところ何いくらの情のとくよきをなるこ性を動を先ー
紳紂なり性を動くことの情なる是を先ー性をなるこ性を動を先ー
せきれそれ性を分ちを先ふこ性平の胸を七穴をあきは心の者烈性孔をあき芋をうえ也木ニ
りわせてこれを分ちをもーはぐるの孫を為をもまく紂り炮烙の刑なとこの其情を先ふ是性動を先
よりさるこ由とは由とのこの二つ孔を為古のなり俗主は情なるき作きと動く交毎に亡の紂と
ことをなるとべられ耳は繊なるられ耳は繊なるられ目は美なるられ口は三のいまーしまきの欲を口の
まられさえむとるときい附とふ孫の孫の植くらふ首の孫いるのこのるとて筋骨と沉湯して血脉
いとて壅塞して用ーさきえ九竅の孫を先の
情ある其性を害するとそ是彭祖ありくい
ぬさ情の孫を行のてことをるさきえ欲をるこ
なよせのなを先ふなり民人の怨讟をもーた
てくるくさるこまるく其寵幸をるものさなる
いみ尚ひこれるく智をるくいふ其個中に敵の
むしんて愚惠を行ふるなりくこそいふ
る因窮をるなりくこそいふ後悔をるとこ
り附はほ孫なな危ーくを危ーくをるとて
おりてくふを用てのちは強をるとのは不仁ふ
病怒起へ乱雑たるまりいくるもしこと民を恤むのたなは
しまを耳の孫をるこ月のるこをなのまを
いかるを壽長は其生を全して孫のまを
かいこれ早定とはとのきーりきを其ちを
ちんを早くるり孫先を行ふとを一早定を倫を
行ふとを早くるを是をるときハ生をきを
天の為に生ををるのこれを秩早くきを
早りまを天地もをるを天のるりたるくるるりるる

ハ地をるをあくるるこ万物の象そのはを手にるるとり万物の象を
一新なり強ないるを盡万物もまこ貴のこく酌んて生たるこの外をいふ故はきこの生ハ為早く地たて
ハまをみやるる盡万物もまこ貴のこく酌んて生たるこの外をいふ故はきこの生ハ為早く地たて
為物こまをくるものこに功ものはとりてを世間を酌ることを
ちるきをくる功ものはとりてを世間を酌ることを
是ちるのこ乱もをるくるるまる人欲を創て其欲を
ちるきをくる乱もをるくるるまる人欲を創て其欲を
思ひ彭祖り壽をるこ天下治るこ人を為欲曰人を
思ひ彭祖り壽をるこ天下治るこ人を為欲曰人を
らん天子ハ至貴し天下を有りハ至富し八而策
ハ至賤なり雖を立ちの地なきをるを貧し九而策
たるーといふり人を欲をるこ地なきをるを貧し九而策
治めんとおるふてあをーもて義都をるを保りこ
欲の則まるをるのこ由ちを欲なきをるを欲
こきこ世の人是を欲をるをるを小欲とハ為
ハ欲ありとをるを大欲ハ之欲のこと小智ハ智ありとをるを小欲
ありえをたるをるをハ人をとをるをハ人を
ちもをるとをるをハ人をとをるをハ人を
欲を創て天下の廣きを及ぶて民ハ
治をなるこの身ハ天下ちを富を居る大欲を
乃武烈こまをたるこのをるこ民の
民をもるこをるこをるこをるこ民の
とをるりもきハ氷炭自黒とりとをなるの
しをるーを性欲を上人をいをたるりをるこ
欲し漁ハ釣ーを止むーりをるの性欲とハ元食居洗心
止むーをるを粥民ハをるを遺なる禄の云をを
居を為て性をるを上の愚民を於のく粥民
たるのこをるを欲をるこをるをを欲
るをこをるを粥民ハをるを人のいをるこ
きを示ハ粥民ハをるを欲を止めて性
ちり改髮ハ自の文なり是をおとて文を欲
の性のをるハをるを人のをるを世をくるを人
と工能の関を伸をなきをるのをるを世をくるを人
の性欲なきをるのをるを世をくるを人

ハ欲とハ性欲とハ元食居洗心
欲し漁ハ釣ーを止むーりをるの性欲とハ元食居洗心
止むーをるを粥民ハをるを遺なる禄の云をを
居を為て性をるを上の愚民を於のく粥民
たるのこをるを欲をるこをるをを欲
るをこをるを粥民ハをるを人のいをるこ
きを示ハ粥民ハをるを欲を止めて性
ちり改髮ハ自の文なり是をおとて文を欲
の性のをるハをるを人のをるを世をくるを人
と工能の関を伸をなきをるのをるを世をくるを人
の性欲なきをるのをるを世をくるを人

ひとりふるを笑て、ものしりとて、耳を洗ひて上流に
和る二子もさきを譲らんと思ふの欲ありまつ
といたて石の木にかけ、ものしりとて、はこの二子の上智と
とてもさたとりの欲こそ、はかりがたし、親氏のたい
ふ信を直さんとて、親氏これを一向おしへ
是曲木を直さんとて、親氏これを一向おしへ
親氏の智の失多ト

児談巻之三

世乃人学問を好むとの方は二人は名利を
世こゝろをあくなーこと名利を
てたるかなふるに盗跖名利を
なりて共準則を失て島獸ふ
ゆーといつらも九代前八十万石
きのむま居城をーつ大敵に
衰ハ天の寒暑はたらこと
なりもをつくることを
なりもて貪ーくいやーきの中ら
氏のいやーきの書なくて
とあて英雄のこゝをとる
ごとーこゝを書をよ
ふ他となるるこを
言葉よりて
ハ二ふりまくいつ
人の道悪ハ学問して人
なきことにあるとの
きをきらて世ちて
海の法度と世
て濁を
呂吉甫
黄太史
あ復ち面観
ふ
伯仁
大を
児談巻之四

世説風恵

陳太丘友と行
たるれ
父を
ハ家の
車より
もく
黄太史
上
石
郭

ごゝ水の
鄭艾口喫心
いるく風
て日向
へく石
女
ひとなり
小白きこ
曲柄の
ハさる
陸羽張
海の法
て濁を
呂吉甫
あ復ち
黄太史
児談巻之四

世説風恵

陳太丘友と行
たるれ
父を
ハ家の
車より
もく
黄太史
上
石
郭

騾裏 メイベ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

敷

醜なり交礼をなりて許允まさに入て視るに婢あり婢みな今して此客無乃やむ婢なりて曰こまも客に桓郎なりと云ふ婦の曰憂ること勿れ桓郎必許允なまさに入て就せよとまくのんなり桓郎
はじめて卿まおくふてくこを意乃ち一なんちこをおく家して視るに一耕して刈允の裾を拔く傳
ゑてまくのんもも地のかなふへ許允今ないまくいかに卿ハ夫我りなるや物のいかくなるのミ妙の曰ふ
められそ許允の曰く物色面識なくなくなくな

像をして者ものあらしめて謝これをよろこびて曰ふ是れ仏像たるやいなや兄のまた胡児ゥ曰これ仏を宋の明帝
に拔たるよ似たりとなすと題女のいたくあらずして是れ仏像の風なり是をもつてこれを問ふ答へて曰ふ
帝のいたく外の家のまのしきものを今ことに三をを視るや后のいたく外の家乃
なるをとるを多し豈始興妹をひかりて妹人のうるもをあるをたのみとせんや后の兄景文
ちうこのたのしむのいたくをあるをにして先をたのみとせんや后の兄景文
人をうるうして曰ふ仏家に聖一こさい偉弱の妹人なりしかは仏乃
宋乃太祖まうをうるを延せんをとるとき京師みな讀言一名ハ軍中こと點檢をたくあるもちいらるを天子をとせんと欲
とりくふ太祖欲みを出て曰外王のうるかはのをしーるを尚書をいりんをや太祖り嫁はきを厨まるく行を
出てをるるを斜林をとりて太祖をうちをめて曰太夫ハたるをのそれとき可否をまさに
こをを出をしーるんて家をまるうりて妹女恵帝をを

得時与不得

児談巻之六

其の仏像を祈りて妬忌ををるをなり男ハ仏像を
をるを乃なりきのをいををりれしをと今を祀をあるを
母ひをしく者をくて太為の名をを聖と敬をを仏像を
恵の祀をあるを聖の名をを百民是を父母と仏像を
聖ハみるを天下を宮中天下を泉にたまふを故ハ聖ハ至尊を百民ハ一聖のをを
とくを世をを聖の必帝たるををるをををたるをを
ゆをひをしく者をの聖の功あり必帝たるをあるをを聖の名をを
をるを乃世をむ孔子をを聖の功なきをををを聖の功をいうをん今の世ハ学
をこをあるを世の書をををををを孔子をを出後をを聖の功をを一代の学者ハ時平の
の者学者をををる時孔子の　なり　場武　を継行をををを仏ハ
後ハ小孔子をて喜使いをく貴く孫義徒兄弟不和乃
桃源を一偏を恵をくふ大為を先を八鬼女の逆をを
いのをと者逆をあひをあいをををを

を時を治めんとふ其時とん無紂の世を治めて聖乃功る一孔子を欲して周公旦を
学ばんことをのぞまんとて聖人と不仁の世を知られ孔子の用をなす一車の三十輻とその心をつくして其功あり孔子聖人紂の世
仁義名をなさんと欲ふ老子曰君くもの虚名を求ふ英雄ハてきの名を求ふ仁義ハ世の
を欲一英雄乱世を欲ふ徒の聖人ひ一仁義ハ世の名なき世こそいみ一ち古今一なり故ま鏡を
名なき世こそいみ一なり故ま鏡をもて徒の人なり易乾の卦竜を学ぶ天之めてこそ
学ぶ天一なり玉ハ仁義ハ心を徒の人なり易乾の卦竜を学ぶ天之めてこそ
の門とかり玉ハ仁義ハ心を徒の人なり易乾の卦竜を学ぶ天之めてこそ
きさるをもるまき弘子生て人聖人なるをきさ
たまを一名を開更ハ名をけしたまふ一名をもひ一聖の功ありと云ハ民母をとを
の名をけしたまふ一名をもひ一聖の功ありと云ハ民母をとを
ハ聖人ハ倫乃名をたてる歌を学ぶ今愚ハ愚ハ自然ハ名を
も聖人の功名をものとあんや故ハ孔子ハ聖ハ聖ハ自然ハ名を
一真功ハ功ハ一ハ昔ハ孔と母ハ名をもて天愚ハ孔ハ兄弟夫婦となりうこたまふ男ハ天
愚ハ孔ハの子たちと一女ハ赤盃鳴昔の子なり天愚ハ孔ハ一ひとをつ
故ハ人ハ恐の鏡ハ響乃ひとふ今の世ハと人ハ歌ハ春秋の三徳ハ文朝と
外のときハ歌ハ乃ひとふ一故ハ人ハ上智とも是を
ゑれ天の自然ゆえ老子ハ上智とも是を
なを老子ハ故ハ害を知り韓非子老子を
を知ハ一是を奏に乃ハ故ハ害を知り韓非子老子を
此害をうく今の世ハ書を書ハ一名を書ハ梓毒茶を食ハ
仏の道ハ一ハ書ハ書を書ハ梓毒茶を食ハ
ゑり孔子ハ一こと老子の罪人なり老子ハ人ハ天の天ハ陰陽寒暑なり故ハ
世ハ治乱盛衰乃ハ一こと老子の罪人なり老子ハ人ハ天の天ハ陰陽寒暑なり故ハ
ゑる一ことの乃ハ一ゑる一ハ故ハ人ハ天の天ハ陰陽寒暑なり故ハ
きハ上真子の乃ハ一ゑる一ハ故ハ人ハ天の天ハ陰陽寒暑なり故ハ
請に乃ハ真子を父ハ知て誅せんと乃ハ又父誅ハ乃ハ
ハ是ハ知ハ乃ハ一ハ信ハ信ハ信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]